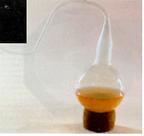
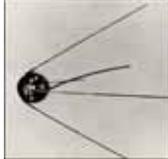


西暦	和年号	缶詰・食品関係の出来事	日本・世界の出来事	小売価格の推移			
				白米10kg	缶詰		
					牛肉大和煮170g	サケ水煮200g	
1804	文化元年	仏国でニコラ・アペールが缶詰製造原理を発見	ロシア使節レザノフが長崎に来る フランス第一帝政(04~14)、 トラファルガルの海戦	      			
1805~1815	文化2年~文化12年	英国でピーター・デュランが金属製密封容器詰食品開発(特許取得)1810年	間宮林蔵が樺太探検(1806) ライプチヒ諸国民戦闘(ナポレオン敗退)				
1816~1835	文化13年~天保6年		外航船打ち払い令(1825) ウィーン体制、ラテン・アメリカ諸国独立、 フランス7月革命				
1836~1855	天保7年~安政2年		アメリカ使節ペリー浦賀に来航(1853) イギリスで労働運動発生、フランス2月革命、 アヘン戦争				
1856~1866	安政3年~慶応2年	仏国でレイ・パスツールが発酵や変敗原因の微生物の存在を発見(1861年)	幕末期 欧州列強形成時代、南北戦争、 ドイツおよびイタリア統一、バルカン問題発生				
1867	慶応3年		大政奉還 マルクス「資本論」				
1868	明治元年		幕末の物価騰貴 (8年前比較で米が3.7倍、干し鰯3倍、砂糖3.2倍)		55銭		
1869	明治2年		造幣局設置、戊辰戦争終了 スエズ運河開通、大陸横断鉄道完成(米)				
1870	明治3年		国旗(日の丸)制定、樺太開拓使設置 普仏戦争(~71)				
1871	明治4年	長崎県人の松田雅典がフランス人のデュリーから製法を学び、イワシ油漬缶詰を試製 廃藩置県	郵便制度発足、新貨条例交付(1両を1円と改称) ドイツ帝国建設、パリコンミュン				
1872	明治5年	英国で沸騰水でも死滅しない微生物の存在を発見	鉄道開通、国立銀行条例交付	36銭			
1873	明治6年		徴兵令交付、内務省設置 三帝同盟(独・露・奥)				
1874	明治7年	内務省勸業寮新宿試験場で缶詰試製に着手 米国でオートクレーブが完成され缶詰殺菌に応用	札幌農学校開校				
1877	明治10年	独国のF.コーンが耐熱性細菌を芽胞と命名し芽胞の死滅について研究(1876年) 北海道開拓使石狩工場でサケ缶詰を生産	西南戦争、東京大学開設 英領インド帝国成立	51銭			
1878	明治11年		東京神田大火災・4560余戸焼失、 東京株式取引所開業 電燈の発明				
1879	明治12年	勸農局銚子でイワシ缶詰を製造	日本橋・京橋大火・7000戸焼失				
1880	明治13年		工場払下概則布達(官設工場の漸次民営化指示)				
1881	明治14年	東京の根岸吉松らが製缶と製缶機械の製造販売開始	東京大火(神田から深川まで15,000戸焼失)				
1882	明治15年		日本銀行開業 三国同盟(独・奥・伊)	82銭	23銭	23銭	
1883	明治16年		天気予報開始				
1884	明治17年	天然鉱泉水壺詰開始	東京府の人口が100万人突破				
1885	明治18年	福井県の大戸与三兵衛がカニ缶詰に酢を入れて黒変防止に成功	太政官制廃止・内閣制度施行				
1886	明治19年		帝国大学令公布 自動車の発明				
1887	明治20年		仏領インドシナ連邦成立	46銭			

西暦	和年号	缶詰・食品関係の出来事	日本・世界の出来事	小売価格の推移			
				白米10kg	缶詰		
					牛肉大和煮170g	サケ水漬200g	
1888	明治21年		市制・町村制公布				
1889	明治22年		大日本帝国憲法発布				
1890	明治23年	米国で耐熱性細菌とスイートコーン缶詰の変敗との関係を研究(S.C.プレスコットとW.L.アンダーウッド)	第一回衆議院議員選挙				
1891	明治24年	函館の水嶋隣多が択捉島で紅鱈缶詰を初めて製造	大津事件				
1892	明治25年		活動写真の発明				
1893	明治26年	米国で自動製びん機開発	北京・山海関間鉄道開通				
1894	明治27年	水産伝習所がアメリカ製自動ロウ付け機を据え付け	日清戦争勃発				
1895	明治28年		日清講和条約調印 X線の発明				
1896	明治29年		深川・神田・神戸の正米市場認可				
1897	明治30年	呉の高須缶詰所がアメリカ製パワープレスで据え付けコンビーフの製造開始	金本位制確立、米価高騰			20銭	5銭
1898	明治31年		民法全編施行 ラジウムの発見(キュリー夫人)	67銭			
1899	明治32年	函館の水嶋隣多が黒龍江下流域で邦人としてはじめてサケマス缶詰製造	通貨制度統一完了				
1900	明治33年	陸軍中央糧秣廠がゴム巻締機械をドイツより輸入 缶詰製造開始 「有害着色料取り締まり規則」「清涼飲料水営業取り締まり規則」「飲料物防腐剤取り締まり規則」「人口甘味室取り締まり規則」相次いで制定	東京株式相場大暴落 量子論の基礎(プランク)	1円12銭			
1901	明治34年	藤野缶詰所、米国とカナダから自動式缶詰機械、ドイツからゴム巻締機械を輸入 - 民間で初めて缶詰の量産体制を整える	米価暴騰(全国米穀取引所売買停止) 第一回ノーベル賞授与				
1902	明治35年	台湾総督府囑託・岡村庄太郎が台湾高雄州鳳山にパン缶詰事業創始	日英同盟条約調印 シベリア鉄道完成	1円19銭			
1903	明治36年	愛知県水産試験場がイワシ油漬缶詰の本格的生産に着手	ロシア、満州を占領			25銭	6銭
1904	明治37年	浜口富三郎が硫酸銅によるグリーンピースの葉緑素定着法を開発	ロシアに宣戦布告、タバコの官営専売実施				
1905	明治38年	大日本缶詰業連合会設立	日露講和条約調印 ロシア・血の日曜日				
1906	明治39年	イワシ油漬缶詰用のオリーブ油と製缶用ブリキに輸出戻し税制度適用	鉄道国有法公布				
1907	明治40年	堂本誉之進が北米貿易を設立 - カニ缶詰製造業が急速に発展	東京株式相場大暴落(戦後恐慌) 三国協商(英・仏・露)	1円56銭			
1908	明治41年	水産講習所がバキュームシーマーを設置					
1909	明治42年		ビーリーが北極探検				
1910	明治43年	堤清六、鍋島態道らがカムチャツカ東海岸で初めてサケマス缶詰試製	韓国併合条約調印				
1911	明治44年		日米通商航海条約調印 辛亥革命				
1912	大正元年		全国的にコレラ発生(患者1000人余) 清朝滅亡	1円78銭			
1913	大正2年	堤商会がわが国初の自動製缶機械を米国より輸入しカムチャツカ工場に設置 - サケマス缶詰の量産体制を整備	大正政変(第3次桂内閣総辞職) 第二バルカン戦争				
1914	大正3年	堤商会が函館に製缶工場を建設 - 自動製缶機をカムチャツカより移設、水産講習所練習船「雲鷹丸」カムチャツカではじめてトラバガニの缶詰を製造 林鉄工所(現東洋食品機械㈱)が国産第一号の桑田式自動巻締機を完成 長崎県水産試験場でトマトサーディン缶詰量産の研究に着手	第一次世界大戦勃発、株式相場・生糸相場暴落 パナマ運河開通				
1915	大正4年		米価調節令(崩落した米価対策のため、随意契約による売買契約)				

西暦	和年号	缶詰・食品関係の出来事	日本・世界の出来事	小売価格の推移				
				白米10kg	缶詰			
					牛肉大和煮170g	サケ水漬200g		
1916	大正5年	農商務省が「輸出飲食物缶詰取締規則」交付 日本硝子(株)が自動製瓶機及びビール用自動瓶詰機を開発	大正デモクラシー運動開始		1円20銭	26銭	7銭	
1917	大正6年	東洋製罐(株)設立、日本製瓶(株)設立-半自動設備で製瓶の量産化を図る	物価調整令公布(暴利取締り) ソビエト政府誕生					
1918	大正7年	陸軍がヨーロッパ式巻締缶を廃してサニタリー缶を採用 全国清涼飲料水連合会発足	米騒動		3円4銭			
1919	大正8年		白米小売価格暴騰(1升60銭) ヴェルサイユ条約、ワイマール憲法					
1920	大正9年	富山県水産講習所練習船「呉羽丸」がカムチャツカ沖で工船カニ漁業の試験に成功 米国で加熱殺菌理論発表(W.D.ピグロウとC.O.ボール) 米国で芽胞とpHについて研究(W.D.ピグロウとJ.R.エステイ、1920年代)	戦後反動強行(株式、商品相場軒並み崩落) 国際連盟成立					
1921	大正10年		米穀法・米穀需給特別会計法公布					
1922	大正11年	缶詰普及協会(日本缶詰協会の前身)設立	中国問題に関する9カ国条約 ソビエト社会主義共和国樹立					
1923	大正12年	「日ソ漁業協約」締結(北洋漁業権獲得)	中央卸売市場法公布、関東大震災					
1924	大正13年	缶詰開缶研究会・推奨品にマーク貼付を決める	経済不況(首相が勤儉力行声明発表)					
1925	大正14年	缶詰普及協会研究部がブリキ板及びブリキ缶、膨張サケマス缶詰内の細菌について研究	日ソ基本条約調印、政府が米価調節を生命 実用的テレビジョンの発明			26銭5厘	19銭	
1926	昭和元年	林鉄工所がわが国初の真空巻締機を完成	蒋介石が北伐開始		3円20銭			
1927	昭和2年	(社)日本缶詰協会設立(大日本缶詰業連合会と缶詰普及協会の事業を継承) 広島に加島正人が初めてアルカリ剥皮法によるミカン缶詰製造に成功	昭和金融恐慌			27銭	12銭5厘	
1928	昭和3年	麒麟麦酒(株)がキリンレモン発売 静岡県水産試験場の村上芳雄技師がマグロ油漬缶詰を試製	第1回普通選挙実施					
1929	昭和4年	清水食品(株)がわが国で初めてマグロ油漬缶詰を製造	ニューヨーク株式大暴落(世界大恐慌)			26銭5厘	14銭	
1930	昭和5年	日本鮭鱒缶詰業水産組合設立	米価暴落 ロンドン軍縮条約			2円30銭		
1931	昭和6年		満州事変勃発				21銭	9銭
1932	昭和7年	日本輸出鱈缶詰業水産組合設立 四ツ菱食品・浜口文二がミカン剥皮法に酸法(塩酸使用)を採用(特許取得)	5・15事件(犬養首相暗殺)					
1933	昭和8年		三陸地方で大地震大津波、米穀統制法公布 米国・ニューデール政策開始		1円90銭			
1934	昭和9年	「輸出水産物取締法」交付、トマトサーディン缶詰の輸出大幅に伸長	満州国帝政実施、函館市大火、室戸台風襲来 ヒトラー総統就任					
1935	昭和10年	中央蜜柑缶詰工業組合設立 米国でネクターの商業的生産開始	陸軍内部抗争激化			2円50銭	48銭	25銭
1936	昭和11年	四ツ菱食品・浜口文二が回転式低温殺菌機で特許取得	2・26事件 西安事件					
1937	昭和12年	鋼鉄の統制実施により王冠配給制となる	日中戦争始まる、戦時経済帝政へ移行					
1938	昭和13年	空缶が配給制となる 米国で果汁製品に瞬間殺菌法を採用						
1939	昭和14年		賃金統制令公布、国民徴用令施行、 物価統制令実施 第二次世界大戦勃発		3円25銭			
1940	昭和15年	農林省が対米マグロ缶詰の輸出停止決定	砂糖とマッチに切符制実施					
1941	昭和16年		東京・大阪で米の通帳配給制実施、 太平洋戦争勃発					

西暦	和年号	缶詰・食品関係の出来事	日本・世界の出来事	小売価格の推移		
				白米10kg	缶詰	
					牛肉大和煮170g	サケ水蔵200g
1942	昭和17年		食糧管理法公布			
1943	昭和18年		諸物価値上がり			
1944	昭和19年	缶詰代替品の蜜詰食品が登場	東京大空襲 米爆撃機B29完成			
1945	昭和20年	米国でオレンジの冷凍濃縮果汁開発	ポツダム宣言受諾 国際連合成立		6円	
1946	昭和21年	(社)日本缶詰協会研究所設立	第一・二次農地改革、日本国憲法公布		36円	
1947	昭和22年	食品衛生法制定	労働基準法・独占禁止法公布、日本国憲法施行、改正民法公布		149円60銭	
1948	昭和23年	社団法人缶詰協会と組織変更(日本缶詰研究所を基盤とし日本缶詰協会・日本缶詰振興会を合併)	福井大地震			
1949	昭和24年		GHQが1ドル360円の為替レート設定指令 北大西洋条約機構調印			
1950	昭和25年	社団法人日本缶詰協会と名称変更 農林物資規格法(JAS法)制定 缶詰物品税・取引高税撤廃	朝鮮戦争勃発、特需ブーム		445円	
1951	昭和26年	米国がマグロ油漬缶詰の輸入税を45%に引き上げ	対日講和条約・日米安全保障条約調印			
1952	昭和27年	社団法人日本缶詰協会と名称変更 栄養改善法制定	韓国が李承晩ライン設定宣言、メーデー事件			
1953	昭和28年	輸出水産業振興法公布 日本蜜柑缶詰工業協同組合創立 米国でオレンジのチルドジュース発売(アセプティック技術の発展で出現)	テレビ放送開始		680円	80円
1954	昭和29年	日本果汁協会発足、ビキニ環礁での水爆事件で放射能汚染マグロが問題になる	第5福竜丸水爆被災、日本がカット加入			
1955	昭和30年	輸出水産業振興法に基づく輸出水産業組合次々に創立(日本蟹缶詰輸水組、日本鮪缶詰輸水組、日本鰯缶詰輸水組、日本秋刀魚缶詰輸水組、日本鮭缶詰輸水組の5組合)、日本缶詰検査協会発足	日中漁業民間協定調印、第一回原水禁世界大会 バンドン会議		845円	
1956	昭和31年		日ソ漁業協定妥結、日本が国連に加盟			
1957	昭和32年	米国でマグロ類のタリフクォーター制発効 コカ・コーラ社が原液供給会社として日本飲料工業(株)設立(現日本コカ・コーラ(株))、東京飲料(株)(現東京コカ・コーラボトリング(株))がコカ・コーラのボトリング開始	EEC結成、ソ連が初の人工衛星打ち上げ			
1958	昭和33年	缶ビール発売(朝日麦酒)、インスタントラーメン登場	関門トンネル開通、1万円札発行			
1959	昭和34年		メートル法実施、安保改正阻止闘争 ソ連が月ロケット打ち上げ			
1960	昭和35年	イノシン酸が調味料として登場	自民党が高度成長・国民所得倍増政策発表 欧州自由貿易連合(EFTA)発足		870円	95円
1961	昭和36年	公取委が畜肉、鯨肉缶詰の不正取引に特殊指令(紛らわしい表示の禁止) 農林物資規格制度を改正して統一JASマークを制定	農業基本法公布施行 米ソが有人衛星打ち上げ回収に成功			
1962	昭和37年	果実缶詰輸入自由化 果汁飲料の農林規格告示、グリーンピース缶詰などの野菜缶詰の農林規格告示、桃缶詰などの果実缶詰農林規格告示 不当景品類及び不当表示防止法(景表法)制定	日中間議定書調印 キューバ封鎖			
1963	昭和38年	缶詰製造業が中小企業近代化促進法による近代化計画策定業種に指定される	日中間漁業協定調印			
1964	昭和39年	テトラパック容器の牛乳発売	OECDに正式加盟、東海道新幹線営業開始、オリンピック東京大会開催			

西暦	和年号	缶詰・食品関係の出来事	日本・世界の出来事	小売価格の推移			
				白米10kg	缶詰		
					牛肉大和煮170g	サケ水蔵200g	
1965	昭和40年	立ち喰いそば店登場(東京など)	ILO87号条約承認 米軍がベトナム北爆開始		1,125円	160円	115円
1966	昭和41年	日本食肉缶詰工業協同組合創立 FAO/WHO合同食品規格(コーデックス)委員会に日本加盟	中国文化大革命				
1967	昭和42年	トマト加工品4品目の日本農林規格告示、食料缶詰の農林規格告示 農林省が「果樹農業振興基本方針」を発表 日本水産缶詰輸出水産業組合設立 森永製菓(株)がネクター登録商標権を公開	公害対策基本法公布 ケネディラウンド妥結				
1968	昭和43年	公取委が「缶詰の表示に関する公正競争規約」を公示 消費者保護基本法制定	イタイイタイ病を公害病に認定 核拡散防止条約調印		1,520円	200円	140円
1969	昭和44年	レトルト食品誕生(アルミ箔ラミネート容器詰のカレー。前年に透明容器詰で既発売) 野菜・果実(ジュース原液を除く)缶詰製造業が資本自由化50%業種となる 厚生省がチクロ使用禁止・使用製品の回収指示	東名高速道路全面開通 アポロ11号月面着陸				
1970	昭和45年	農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律(JAS法)改正	日本万国博覧会開催、公害関係14法成立				
1971	昭和46年	米国が水銀マグロ缶詰33銘柄(うち日本産7銘柄)輸入禁止 米国がドル防衛の新経済政策発表(ドル・ショック)-ドル交換一時停止・10%の輸入課 徴金徴収、円が変動相場制に移行 スミソニアン体制に(1ドル = 308円の新レート)	1ドル308円に切上げ 米国ドル防衛策を発表、スミソニアン合意				
1972	昭和47年	「公害防止法」施行	日米沖縄返還協定発行、日中国交正常化 東西ドイツ基本条約調印		1,600円		
1973	昭和48年	米国FDAに対する缶詰工場登録開始	円の完全変動相場制移行、第一次オイルショック ベトナム平和協定調印		320円	170円	
1974	昭和49年	南カムチャツカのタラバガニの母船式操業が禁止(蟹工船の終焉) 農林省が「缶詰製造流通基準」を策定			2,100円		
1975	昭和50年	HTST殺菌のレトルト食品登場 「レトルトパウチ食品農林規格」告示 ミカン缶詰に界面腐食クレーム発生(日本缶詰検査協会が調査・解析に着手)	沖縄海洋博開催 ベトナム戦勝終結、 第1回世界先進国首脳会議開催		2,495円		
1976	昭和51年	農林省が「レトルトパウチ食品類製造流通基準」を策定	ロッキード献金事件 ヴァイキング1号火星着陸				
1977	昭和52年	米国・ソ連が200海里漁業専管水域実施 「容器包装詰加圧加熱殺菌食品の規格基準」告示 米国FDA(食品医薬品庁)が米国でレトルトパウチを食品容器として認可	有珠山噴火		3,000円	390円	260円
1978	昭和53年		宮城県沖地震				
1979	昭和54年	東京ラウンドに基づきモモ、スイートコーン缶詰などの関税引下げ 果実缶詰のJAS及び品質表示基準改正告示	第二次オイルショック		440円	260円	
1980	昭和55年	缶詰の製造年月日6ケタ表示告示 野菜缶詰のJAS及び品質表示基準改正告示	イラン・イラク戦争		3,235円		
1981	昭和56年	日本缶詰協会消費拡大キャンペーンに「Enjoy Can Cookig」コピー					
1982	昭和57年		ホテルニュージャパン火災、羽田沖で日航機事故				
1983	昭和58年		日本海中部地震		3,400円		
1984	昭和59年		日本の平均寿命男女ともに世界一に		3,630円	520円	315円
1985	昭和60年	政府が1850品目の関税引下げ・撤廃を発表(ほとんどの缶詰が一律20%引下げ) 多品種少量生産の傾向が顕著になる 高真空缶詰が市場に本格登場	ブラザ合意で円相場急騰(1ドル230.10円) メキシコ大地震		3,765円		

西暦	和年号	缶詰・食品関係の出来事	日本・世界の出来事	小売価格の推移		
				白米10kg	缶詰	
					牛肉大和煮170g	サケ水漬200g
1986	昭和61年	厚生省が常温流通のLL牛乳製造許可 新食品表示ガイドライン制定	チェルノブイリ原発事故		3,895円	
1987	昭和62年	缶詰の日(10月10日)を制定 温州みかん園地転換整備特別事業開始	税制国民会議結成 ソ連・ベレストロイカ始まる		3,780円	520円 335円
1988	昭和63年	食品衛生法改正(食品添加物の表示基準が改正)	東京外為市場で1ドル120.45円の戦後最高相場に(1月4日)			
1989	平成元年	トマト加工品(ジュース等)輸入自由化	消費税スタート(3%課税) 天安門事件			
1990	平成2年	パインアップ缶詰輸入自由化(TQ制度スタート)	戦後2番目の大型景気に ドイツ統一			
1991	平成3年	牛肉・オレンジ輸入自由化 飲料缶が「再生利用資源促進法」の二種容器に指定され“材質”識別表示が義務化	湾岸戦争		3,780円	500円 365円
1992	平成4年	オレンジ果汁輸入自由化 有機農産物及び特別栽培農産物に係る表示ガイドライン制定	回転寿司チェーンが米国産冷凍寿司初輸入			
1993	平成5年	ガット・ウルグアイラウンド妥結(缶詰を含めた多数の品目の段階的関税引下げ開始) 特定JAS規格食品制度がスタート	公定歩合史上最低の1.75%に			
1994	平成6年		公示地価3年連続下落 ユーロトンネル開通			
1995	平成7年	製造物責任法施行 食品衛生法改正(製造年月日から期限表示への改正、天然添加物が規制対象に)	サリン事件発生 世界貿易機関発足		3,770円	500円 330円
1996	平成8年	農水省が「有機栽培農産物のガイドライン」制定 栄養改善法改正(栄養表示基準制度の導入)	病原性大腸菌O157(患者6000人超) イギリス・狂牛病問題 包括的核実験禁止条約			
1997	平成9年	容器包装リサイクル法施行 加工食品の期限表示施行	消費税5%に 火星探査船画像送信開始			
1998	平成10年	HACCP自主管理マニュアル発表(日本缶詰協会)	金融再生関連法成立 インド・パキスタン地下核実験			
1999	平成11年	JAS法一部改正告示(加工食品及び遺伝子組換え表示等) 農水省が「有機食品の検査認証・表示制度」創設	Y2Kコンピュータ2000年問題 東海村核燃料工場で臨界事故 コソボ紛争でNATO軍ユーゴ空爆			
2000	平成12年	「有機農産物の日本農林規格」制定、「遺伝子組換え食品表示規準」制定	九州・沖縄サミット		3,641円	500円 350円
2001	平成13年	食品リサイクル法施行 遺伝子組換え食品に関する品質表示基準適用	小泉内閣成立、農産物セーフガード発動 国内で初の狂牛病発生 米国で同時多発テロ		3,589円	300円
2002	平成14年	中国産農産物残留農薬問題 食品不正表示問題多発	日本経団連発足 ユーロ流通開始		3,542円	
2003	平成15年	消費安全基本法施行、食品案委員会発足 賞味期限表示に統一(品質表示期限姿消す) レトルトパウチ食品のJAS廃止 10年ぶりの冷夏、食品販売に影響	コンビニ郵便始まる(ローソンが全店にポスト設置) 米英がイラク攻撃 新型肺炎(SARS)が世界的流行 中国が初の有人宇宙船打ち上げ成功		3,488円	
2004	平成16年	缶詰誕生200周年	消費税総額表示実施		3,536円	500円 300円